

普及活動情勢報告（平成29年5月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

「土佐文旦」の着果安定のために ～受粉用花粉の発芽試験を実施～



受粉作業中の生産者

県内一の栽培面積を誇る土佐市の土佐文旦は、平年より1週間程度遅い5月中旬から花が咲き始め、生産者は受粉作業に追われていました。受粉には主に小夏の花粉が利用されており、生産者は前年に採取し、冷凍貯蔵した花粉や、今年採取した花粉を使用します。

農業改良普及課は、着果安定のため、4～5月にかけて花粉の発芽試験を実施しています。今年は、計241点の花粉について調査し、その結果をもとに、生産者は使用する花粉の濃度を調整しました。

発芽試験等の取り組みは、着果への第一歩として重要な役割を担っており、農業改良普及課は、引き続き生産安定に向け支援します。

露地青ネギ栽培のネダニ類被害低減を目指して ～株分け苗の温湯処理実証ほを設置～



温度と、処理時間を変え温湯処理

管内の露地青ネギ栽培では近年、ネダニ類による減収が顕在化し、今後、被害の拡大が予想されます。そのため、農業改良普及課は、農業技術センター、担当専門技術員やJ Aと連携してネダニ類防除対策PT会を立ち上げました。

ネダニ類の苗からの持ち込みを無くすため、株分け苗の温湯処理実証ほを4月中旬から設置し、処理による効果や熱による生育ダメージの有無を調査しています。

引き続き、農業改良普及課は、生育・収穫調査を行うとともに、夏植え苗及び秋植え苗での検討、本ぽの防除対策として夏期の太陽熱土壌消毒の効果についても検討していきます。

J Aコスモス伊野支所生姜部会「提案書」 ～いの町でショウガを栽培しませんか～



産地提案書

J Aコスモス伊野支所生姜部会では、生産量を確保するため、「提案型」担い手確保対策に取り組む事になりました。4月に2回の役員会を開催し、農業改良普及課と関係機関は、提案書作成の支援をしました。

役員会では、5年後に目指す姿の販売量や育成する担い手数について検討を行い、作成された提案書は、全部会員に説明文書を添え送付して周知徹底を図りました。その後、4月26日のいの町担い手協総会において、承認され、新たな研修生の面接を行いました。

今後、農業改良普及課は、研修の充実と、研修生の就農に向け支援をしていきます。